

日本語の「ていく/くる」と 韓国語の「어 가다/오다」の 多義構造

昭和女子大学
徐 珉廷 (서민정)
seomj0606@gmail.com



1. はじめに①

- 同じ事態を言語で表現する場合
→話者の母語が異なると、話者によって採られる表現の仕方は必ずしも同じになるとは限らない。

同じ事態<これから生まれる子ども>



日本語:「生まれてくる子ども」

韓国語:「태어나오는」→×

「태어나는 아이」→○



2009/09/06

2

目次 (1.はじめに、5.おわりには除く)

2. 理論的な枠組み:〈事態把握〉
3. 先行研究
4. 分析・考察:「ていく/くる」と「어 가다/오다」の比較・対照
 - 4.1 〈直示性〉
 - 4.2 「ていく/くる」と「어 가다/오다」のイメージ・スキーマ
 - 4.3 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の対応関係
 - 4.3.1 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の使用頻度
 - 4.3.2 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の空間用法
 - 4.3.3 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の拡張用法
 - 4.3.4 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の多義構造
 - 4.4 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の歴史的な発達の上での差異

2009/09/06

3

2. 理論的な枠組み①

事態把握とは?

- 〈事態把握〉(construal): 言語化に先立って、話者が言語化の対象とする事態について何を表現し、何を表現しないか、そして表現するものについてはどれをどのように表現するか、つまり、**自らの関連で言語化しようとする事態を自らの関連でどう意味づけするか**という営み。

→〈認知言語学〉(cognitive linguistics)の重要な概念の一つ。

2009/09/06

4

2.理論的な枠組み②: 池上(2003, 2004, 2006a~b) 〈主観的把握〉(subjective construal)と 〈客観的把握〉(objective construal)

〈主観的把握〉

話者が言語化しようとする事象の中に自分の身を置き、自分の知覚する事象を自分の体験として〈自己-中心的〉(ego-centric, ego-centered)なスタンスで描くという捉え方

〈客観的把握〉

話者が言語化しようとする事象の外に身を置き、自分の知覚する事象を〈客体化〉し、〈客観的〉なスタンスで描くという捉え方

2009/09/06

5

2. 理論的な枠組み④: 池上(2003, 2004, 2006a~b) 日本語話者における〈好まれる言い回し〉 (fashions of speaking)としての〈主観的把握〉

(1)[道に迷って人に尋ねるとき]

- Where am I? (cf. Where is she?)
- ここはどこですか。 (池上,2006a:183)

(1a)英語話者: 話者は主体として自らの言語化しようとする事態を客体化し、それと対立するというスタンス。

(1b)日本語話者: 〈自己〉は〈自己〉。その〈自己〉は知覚の原点として知覚の対象にならない。→発話の中で言語化されない →〈ゼロ〉化

2009/09/06

6

英語の〈自己分裂〉(self split)と日本語の〈自己投入〉(self projection) 図1: 池上(2006a:184)に基づいて作成

話し手としての自己

2009/09/06 7

ここはどこ?

話し手としての自己

2009/09/06 7

語用論の観点から(井出, 2006)
 図2: 日英語話者間の認識スタンスの差

日本語:(a) メアリーが(私に)(この本)(を)くれたのよ。

英語:(b) Mary gave me this book.

2009/09/06 8

3. 先行研究

- i. 共起制約の有無; 姜桂千(1996)
 持続性「kata/ota」 + [+瞬間性]の本動詞 = 共起しない。
- ii. 起動相マーカ-の有無: 조석호(1996)
 日本語の「てくる」有、韓国語の「e ota」無。

しかし、先行研究では説明しきれない部分がある。
 (例)日本語:「だんだん暖かくなってきました」
 韓国語「따뜻해져 왔네요(×)」、「따뜻해졌어요(O)」→なぜ?
 第4章:「ていく/くる」と「어 가다/오다」の用法の差異→
 日本語話者と韓国語話者間の〈事態把握〉の相違から生じる。

2009/09/06 9

4. 分析・考察: 三つの観点

- ①「ていく/くる」と「어 가다/오다」の〈直示性〉は、本動詞の「行く/来る」と「가다/오다」から動機づけられている。
- ②〈空間的移動〉→〈時間的移動〉→〈ある状態/事態への移行〉を表す用法にまで拡張されること。→それらの用法の背後には共通の認知的な動機づけがある。
- ③「ていく/くる」と「어 가다/오다」における用法の差異の背景: 日本語話者の方が韓国語話者より〈主観的把握〉の方向に強く傾くことを考察。

- 分析の対象: 「動詞1-te動詞2」という副動詞構文(verb construction)において動詞2の位置に現れる「ていく/くる」と、それに対応する「어 가다/오다」

2009/09/06 12

4.1 〈直示性〉

「行く/kata」と「来る/ota」の使い分けの原理

「来る/ota」
 話者の視座に近づく移動として認識した場合[直示的] →例(4)
 「行く/kata」
 (i) 話者の視座から遠ざかる移動として認識した場合[直示的] →例(5)
 (ii) 話者の視座と関係ない移動そのものを表す場合[非直示的] →例(6)

(2)a. 韓国の大統領が日本に**来た**。
 b. 한국의 대통령이 일본에 **왔다**.

(3)a. 日本の総理が中国に**行った**。
 b. 일본의 총리가 중국에 **갔다**.

(4)a. 竜馬が**行く**。
 b. 료마가 **간다**.

2009/09/06 13

4.2 「ていく/くる」と「어 가다/오다」のスキーマ①

⇒ 図3～図9を参照

「ていく/くる」と「어 가다/오다」のスキーマ(schema)を分析するに当たり、以下の二つの観点から分析。
 i. 〈直示性〉
 ii. 「起点-経路-着点」のどちらが際立つのか

山添(2003):『「起点-経路-着点スキーマ」のうち、ある要素が動詞の語彙的意味特性から重要になることを、その要素が『プロフィール(profile)』されると呼び、情報構造において、ある要素が話者の関心から重要になることを、その要素が『焦点化(focus)』されると呼ぶ。』(p.10)

注: スキーマとは、「カテゴリーの全成員に共通して想定される抽象的な理想像」(吉村, 2004:47)のことである。

2009/09/06 14

図3～図4:「てくる」のイメージスキーマ
図5:「어 오다」のイメージスキーマ

2009/09/06 15

図6～図7:「ていく」のイメージスキーマ
図8～図9:「어 가다」のイメージスキーマ

2009/09/06 16

4.3.1 日本語と韓国語における「ていく/くる」と「어 가다/오다」の使用頻度

- 資料: 日本語小説5冊とその韓国語訳5冊
- 日本語の「ていく/くる」: 総946例のうち、「てくる」: 674例 (71.3%)、「ていく」: 272例 (29.7%)

	「てくる」と「어 오다」		「ていく」と「어 가다」	
	空間用法	拡張用法	空間用法	拡張用法
対応する例	332例 (87.6%)	69例 (23.4%)	108例 (77.1%)	63例 (47.7%)
対応しない例	47例 (12.4%)	226例 (76.6%)	32例 (22.9%)	69例 (52.3%)
計	379例 (100%)	295例 (100%)	140例 (100%)	132例 (100%)

2009/09/06

4.3.2 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の空間用法①
 <継起系>と<同時系>

<継起系>

(5) a. 「このダウンジャケット、須藤さんに借りてきて正解よ」【東京54】
 b. 이 오리털 파카, 스토군에게 빌려오길 정말 잘했네 【동경64】

<同時系>

(6) a. 私たちは、ソファに腰かけたままさらに待つ。…(略)…
 柿井さんはひよこひよこ歩いてきた。 【きら142】
 b. 우리는 소파에 앉은 채 기다린다. …카키이 씨가 종종 걸어 왔다. 【만작143】

(7) a. 「あなたは案内した人をみんなあそこに連れていくの？」
 【神の141】
 b. 당신이 안내한 사람은 모두 거기로 데려가나요? 【신의132】¹⁸

2009/09/06

4.3.2 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の空間用法②
 <移動方向の明示化>

(8) a. そうでなくても、教室を**出る**とき、…【我々42】
 b. 그렇잖아도 교실을 {나올/*날} 때, …【我々54】

(9) a. 亮介が…ふたたび席に**戻ってくる**と、【東京18】
 b. 료스케가 다시 자리로 {돌아오/*??돌} 자 【동경23】

「帰る、降りる、戻る、入る、出る」など移動を表し、方向性を持つ動詞が「ていく/くる」に前接する場合
 → 日本語では、単独で用いられる場合もあるが、韓国語では必ず「e kata/ota」が付いた形しか使えない。

2009/09/06 19

4.3.3 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の拡張用法①
 <行為の反復>

(10) a. でも説得で彼の考えを変えられるわけでもないし、そんなのたくさん見**てきた**。説得の嘘ワールドを。 【ハチ47】
 b. …略…그런 일을 많이 보아왔다. 설득의 거짓말 월드를. 【하치44】

(11) a. わが牛は一年に一匹ずつ仔を生んで**いった**。
 b. 우리 소는 일년에 한 마리씩 새끼를 낳아 **갔다**. (박선옥, 2002: 102)

2009/09/06 20

4.3.3 「てくる」と「어 오다」の拡張用法②
 <情意直示(Affective deixis)>

● Tokunaga(1986:131-136)は、話し手が非主語の位置にある場合「くる」を使って動作主(主語)の行為についてネガティブな気持ちを表す場合には話し手自身の心理的直示を補助動詞「てくる」で示すことに注目して、「くる」に<情意直示>を表す用法があると分析している。

- (12) a.トムは私に電話をかけた**てきた**.
 b. ?틈은 내게 전화를 걸어 **왔다**.
 c. 틈한테서 (나에게) 전화가 **걸려 왔다**.
 (Tokunaga,1986:132、韓国語は筆者)

4.3.3「ていく/くる」と「어 가다/오다」の拡張用法③
 <状態持続>

状態持続

- i. 当該する状態が質的な変化なしに継続すること。
- ii. 当該する状態が時間推移と共に漸進的に進行すること。

- (13) a.「私は一人でそれを抱えて生きて**きた**。」【神の144】
 b.「나 혼자서 간직하고 **살아 왔지요**。」 [신의134]
 (14) a.「ちよつとずつちよつとずつ死んで**いくん**や。」【神の69】
 b. 조금씩 조금씩 죽어 **가는 거야**. [신의72]

4.3.3 「ていく」と「어 가다」の拡張用法④
 <進行する行為/状態が終結の段階に至ることを表す用法>

- (15) a. 작업을 다 **해 간다**.
 b. ?作業を全部して**いく**.
 (作業がもうすぐ終わる)
 (国立国語院、2005:514、日本語は筆者)
 (16) 거의 다 죽**어** 가.
 直訳:ほとんど死んでいく。
 意訳:もうすぐ死ぬ(死ぬ状態に近くなっている)

→「어 가다」が「持続」を表す用法があることに終結を表す「끝나다」などの動詞や副詞「다」「거의」などの副詞が付いた影響で現れたと考える。

4.3.3 「ていく」と「어 가다」の拡張用法⑤
 <正常状態から正常状態ではない方への変化>

- (17) 이 생선회는 맛이 **갔다**.
 直訳:このさしみは味が**行った**.
 意訳:このさしみは味が**変わった(腐った)**。(妻、1985:33)
 (18) 그 사람의 머리가 점점 **돌아가고** 있다.
 直訳:その人の頭がだんだん**回って**いっている。
 意訳:その人のだんだん**狂って**いく。(이기동、1977:153)

「어 가다」(や英語の'go')は「正常状態から正常状態ではない方への変化」を表す用法があるのに対し、「ていく」ではこの用法はあまり見られない。

4.3.3 「てくる」と「어 오다」の拡張用法⑥
 <状態変化①>

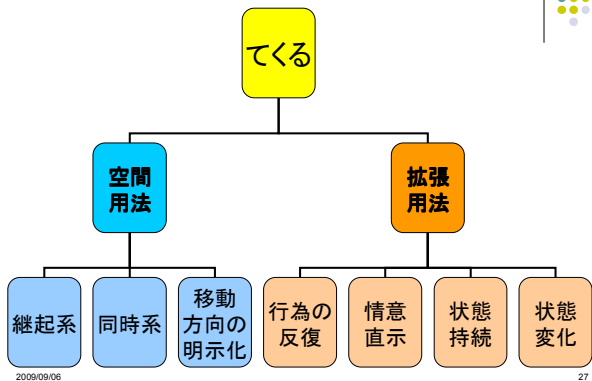
- (19) a.「私はその生まれ**てくる**男の子に善也という名前をつけましょう。」 【神の94】
 b. 「나는 태어날 그 사내아이에게 ...略...」 [신의92]
 (20) [新幹線に乗ったら冷房がきついのでBは上着を着る。それを見てAが]
 (日本語) A:寒い? / 寒くな**ってきた**の?
 B:うん、寒い / うん、寒くな**ってきた**.
 (韓国語) A:추워? / *추워**져 왔어**?
 B:응, 추워. / *응, 추워**져 왔어**.

4.3.3 「てくる」と「어 오다」の拡張用法⑦
 <状態変化②>

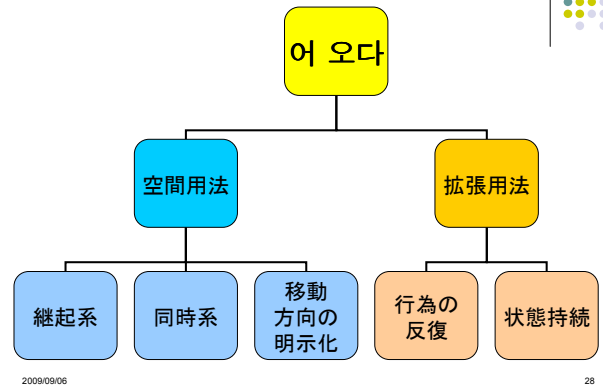
- (21) a. そして雨が降**ってきた**. 【とかげ113】
 b. 그리고 비가 내리기 **시작했다**. [도마뱀109]

● 日本語の「ていく/くる」と韓国語の「어 가다/오다」の用法の差異は「ていく/くる」と「어 가다/오다」の用法の違いだけではなく、日韓両言語の話者間の<事態把握>の相違からなると考察してきた。
 ● つまり、日本語話者が問題になる事象の中に自分の身を置き、<自己-中心的>に語るといった<主観的把握>の傾向が強いことと関連している。

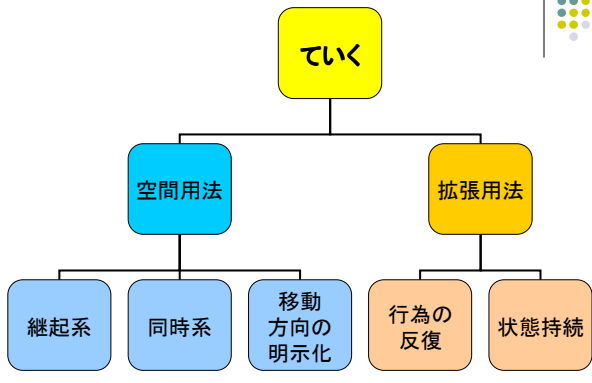
4.3.4 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の多義構造①
 図10:「てくる」の意味ネットワーク



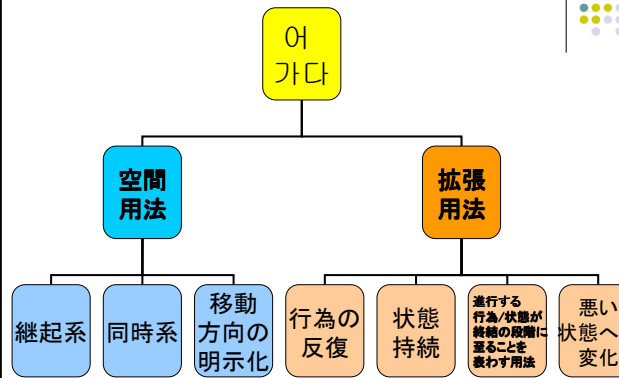
4.3.4 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の多義構造②
 図11:「어 오다」の意味ネットワーク



4.3.4 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の多義構造③
 図12:「ていく」の意味ネットワーク



4.3.4 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の多義構造④
 図13:「어 가다」の意味ネットワーク



4.4 「ていく/くる」と「어 가다/오다」の歴史的な発達の上での差異と現代語への影響

日本語の「ていく/くる」は古く『万葉集』からその用例が見られる(近藤、2000)

韓国語の「어 가다」は中世から使用されたようだが、「어 오다」は近代になってようやく出現した(손세모들、1996)

- (22)a. 明けくれば(安気久礼婆)門によりたち (万葉一七・三九六二・大伴家持)
- b. 大伴のみ津のとまりに船はてて竜田の山をいつか越えいかむ(故延伊加武)(万葉一五・三五九五) (近藤、2000:509-510)
- (23)a. 바람과 드트렌 여희엿는 나리 오라니 앤 돌곤 7살히 일허고는다 <두시초 8:45b>
- b. 이팔 청춘 절무나 절문 년이 늙은 서방을 무슨 자미로 대리고 살을넛가 이덕까지 찾아오기는 쌀 조식 흥나 업는 어머니 아버지 일이 딱히셔 <산천초목 64> (손세모들、1996:316-321)

日本語母語話者の学習者に「어 가다/오다」を教える際の教師側が気をを使う点

- ① [+方向性]の動詞がV1の位置に来る場合
 日本語は「ていく/くる」を付けない場合もあるが、韓国語は必ず「어 가다/오다」を付けないといけない。
 教える際のポイント: <直示性>
- ② 「てくる」の用法 > 「어 오다」の用法
 <情意直示>や<状態変化>の「てくる(O)」は「어 오다(X)」
 理由: 日本語話者が韓国語話者より<主観的把握>をする傾向がある。
- ③ 「ていく」の用法 < 「어 가다」の用法
 <進行する行為/状態が終結の段階に至ることを表す用法>と
 <正常状態から悪い方への変化>の用法: 「ていく(X)」、「어 가다(O)」

5.おわりに① まとめ

- 本論文は、**言語の話者としての人間が発話に際して、その前提となる認知的な営み、(事態)を自らの関連で意味づけ、それに基づいて言語化するという過程**、ならびにその際、**言語によって(好まれる言い回し)をするという観点から日本語と韓国語の対照研究**を行なった。
- 韓国語には日本語の「ていく/くる」に対応する「어 가다/오다」があるにもかかわらず、**なぜ韓国語話者は「本動詞」のみで済ましたり、他の表現を用いたりするのか?** 認知言語学の(事態把握)という概念をもとに考察。
- 従来の日韓対照研究が形式的な面に終始しがちであったのに対し、**本論考はそのような形式的な差異の背後にあるそれぞれの言語の話者の認知的なスタンスの違いにまで迫って考察した。**

2009/09/06

33

5.おわりに②

今後の韓国語教育への提言

- 一見バラバラに見える文法形式事項であっても、実はその言語を使う話者の認知的な営み(発想)からみれば同じところから派生。
- 表現の異同は表面的な形式の差として取り上げればよいというようなものではない → **話者の(こころ)に立ち入ったところでの認知的な営みの差として捉えるという努力が必要。**

➡ 今後このような姿勢を反映した教授法や教材の開発などが望まれる。

2009/09/06

34

主な参考文献①

- 池上嘉彦 (2003) 「言語における<主観性>と<客観性>の言語的指標(1)」 『認知言語学論考3』pp.1-49、ひつじ書房。
- 池上嘉彦 (2004) 「言語における<主観性>と<客観性>の言語的指標(2)」 『認知言語学論考4』pp.1-60、ひつじ書房。
- 池上嘉彦 (2006a) 『英語の感覚・日本語の感覚—(ことばの意味)のしくみ』 日本放送出版協会、NHKブックス。
- 池上嘉彦 (2006b) 「<主観的把握>とは何か—日本語話者における<好まれる言い回し>」 『言語』Vol.35.no.5、pp.20-27、大修館書店。
- 井出祥子 (2006) 『わかまの語用論』大修館書店。近藤康弘 (2000) 『日本語記述文法の理論』ひつじ書房。
- 近藤康弘 (2000) 『日本語記述文法の理論』ひつじ書房。
- 坂原 茂 (1995) 「複合動詞『Vて来る』」 『Language Information Text Vol.2』pp. 109-143、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻。
- 住田哲郎 (2006) 「日本語『〜てくる』の進行態用法」 『日本語研究』第17輯、pp.73-86、韓国日本語学会。
- 盛 文忠 (2006) 「翻訳に見る日中両言語の事象認識の差異」 『日本語研究16』pp.114-123、学苑出版社。
- 徐一平他 (2006) 『甞国』にみる日本語の認知言語学的特徴—中国語訳・英語訳と対照して』 『日本認知言語学会論文集』第6巻、pp.573-596、日本認知言語学会。
- 徐 珉廷 (2009) 『日本語話者と韓国語話者における主観的な<事態把握>の対照的研究—「ていく/くる」と「어 가다/오다」の補助動詞用法を中心に—』 昭和女子大学大学院文学研究科言語教育・コミュニケーション専攻博士論文。
- 徳永美暁 (2004) 「日本語の語用—話者が直接関与する事柄の表現について」 『学苑』、pp.66-77、昭和女子大学。

2009/09/06

35

主な参考文献②

- 新村明美 (2006) 「指示詞の中日英対照: 空間・対象・相手認識の差」 『日本語研究16』pp.54-62、学苑出版社。
- 山添秀剛 (2003) 『移動動詞come/goの意味ネットワークならびに状態変化用法に関する認知言語学的考察』 大阪市立大学大学院文学研究科言語文化専攻博士論文。
- 吉川武時 (1976) 『現代日本語動詞のアスペクトの研究』金田一春彦(編) 『日本語動詞のアスペクト』、pp.156-323、麦書房。
- 吉川千鶴子 (1995) 『日英比較動詞の文法(表現の違いから見た日本語と英語の構造)』 くらしお出版。
- 吉村公宏 (2004a) 『はじめての認知言語学』 研究社。
- 姜桂千 (1998) 『本動詞+補助動詞(くる/오다/가다/오다)의 共起制約対照』 『日語教育』第12輯、pp.123-145、韓国日本語教育学会。
- 국립국어원 (2005) 『외국인을 위한 한국어 문법2-용법편』 국립국어원。
- 권순구 (2005) 『국어보조용언의 연구』 忠南대학교大学院国語国文学科博士学位論文。
- 김성화 (1990) 『국어의 상언구』 (改訂版2003)、한신문화사。
- 박선옥 (2002) 『한국보조동사연구』 中央大学大学院 国語学専攻 博士論文。
- 배수자 (2007) 『현대 국어 보조용언 연구』 昌原대학교 国語国文学科 博士論文。
- 손세모듬 (1996) 『국어 보조용언 연구』 한국문화사。
- 이기동 (1977) 『동사「오다」「가다」의 미분석』 『말』第2集、pp.139-160、延世大学 韓国語学堂。
- 조석호 (1997) 「한·일 양국어 보조용언의 비교 연구—「오다/가다」 및 「くる/いく」를 중심으로—」 『国語国文学』 vol.16 東亜大学 国語国文学科。
- 최현배 (1937/1976) 『우리말본』 『歷代韓國文法体系』 第1部第18冊、탑출판사。

2009/09/06

36

主な参考文献③: 英語で書かれたもの

- Clark, E. V. 1974. "Normal States and Evaluative Viewpoints." *Language* Vol.50.No.2. 316-332.
- Langacker, Ronald. 1991. *Concept, Image and Symbol. the cognitive basis of grammar*. Berlin; Mouton de Gruyter.
- Nakazawa, Tsuneko. 1990. "A Pragmatic Account of the Distribution of Come and Go in English, Japanese and Korean." *Japanese/Korean Linguistics*1 :97-110.
- Tokunaga, Misato. 1986. *Affective Deixis in Japanese: A Case Study of Directional Verbs*. Doctoral Dissertation, University of Michigan.
- Whorf, Benjamin Lee. 1956. *Language, Thought, and Reality*. Cambridge, MA: MIT Press (有馬道子訳(1978)『完訳』言語・思考・実在』南雲堂、池上嘉彦訳(1993)『言語・思考・現実』、講談社)。

主な言語資料

- 江国香織 (1991) 『きらきらひかる』新潮文庫(韓国語訳: 김난주訳(2001) 『반짝반짝 빛나는』소담출판사)。
- 村上春樹 (2000) 『神の子どもたちはみな踊る』新潮文庫(韓国語訳: 김유곤(2000) 『신의 아이들은 모두 춤춘다』문학사상가)。
- 吉田修一 (2003) 『東京湾景』新潮社(韓国語訳: 이영미訳(2004) 『동경만경』은행나무)。
- 吉本ばなな (1993) 『とかけ』新潮文庫(韓国語訳: 김옥희訳(1999) 『도마뱀』민음사)。
- 吉本ばなな (1998) 『ハチ公の最後の恋人』中央文庫(韓国語訳: 김난주訳(1999) 『하치의 마지막 연인』민음사)。

2009/09/06

37

ご清聴、ありがとうございました。

第10周年記念大会
朝鮮語教育研究会

日本語の「ていく/くる」と
韓国語の「어 가다/오다」の多義構造

徐 珉廷(서 민정)
seomj0606@gmail.com

2009/09/06

38